

## 第2章 調査結果の分析



## 第2章 調査結果の分析

### 2-1 水道の使用状況

#### (1) 水の飲み方

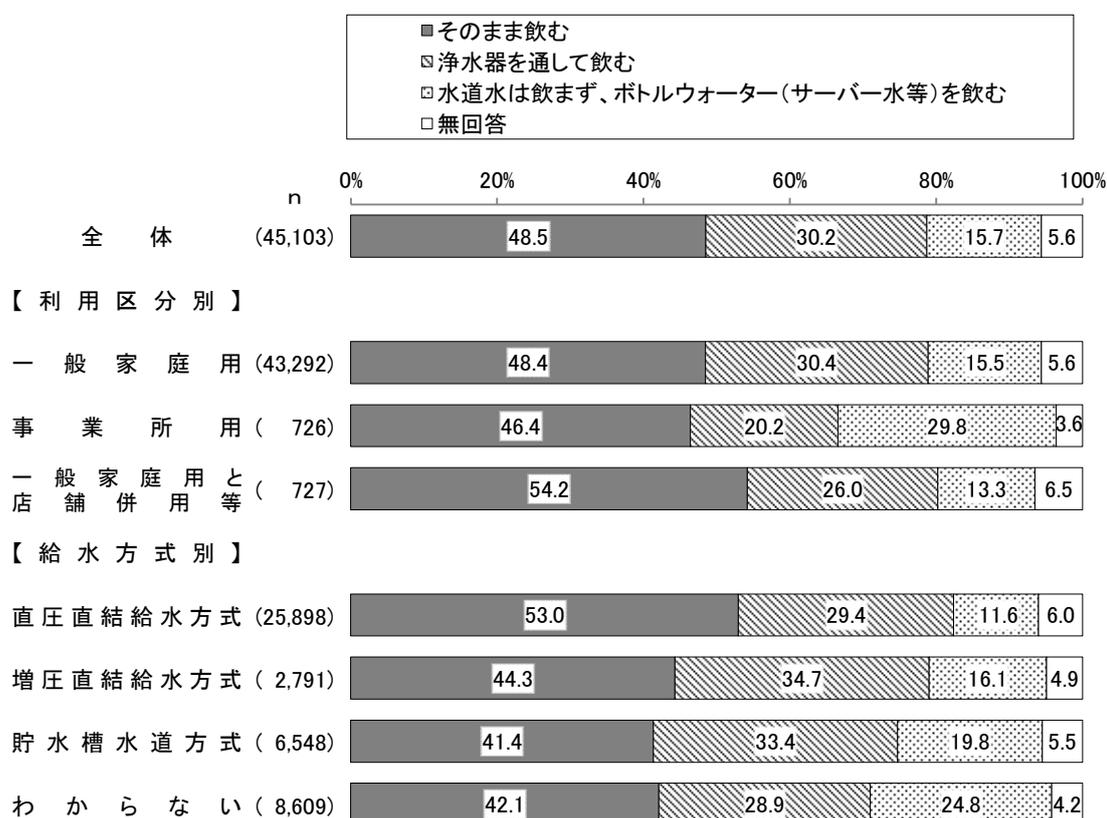
問 普段、水道水をどのように飲まれていますか。

- 1) そのまま飲む
- 2) 浄水器を通して飲む
- 3) 水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む

[A : 問6]

[調査結果]

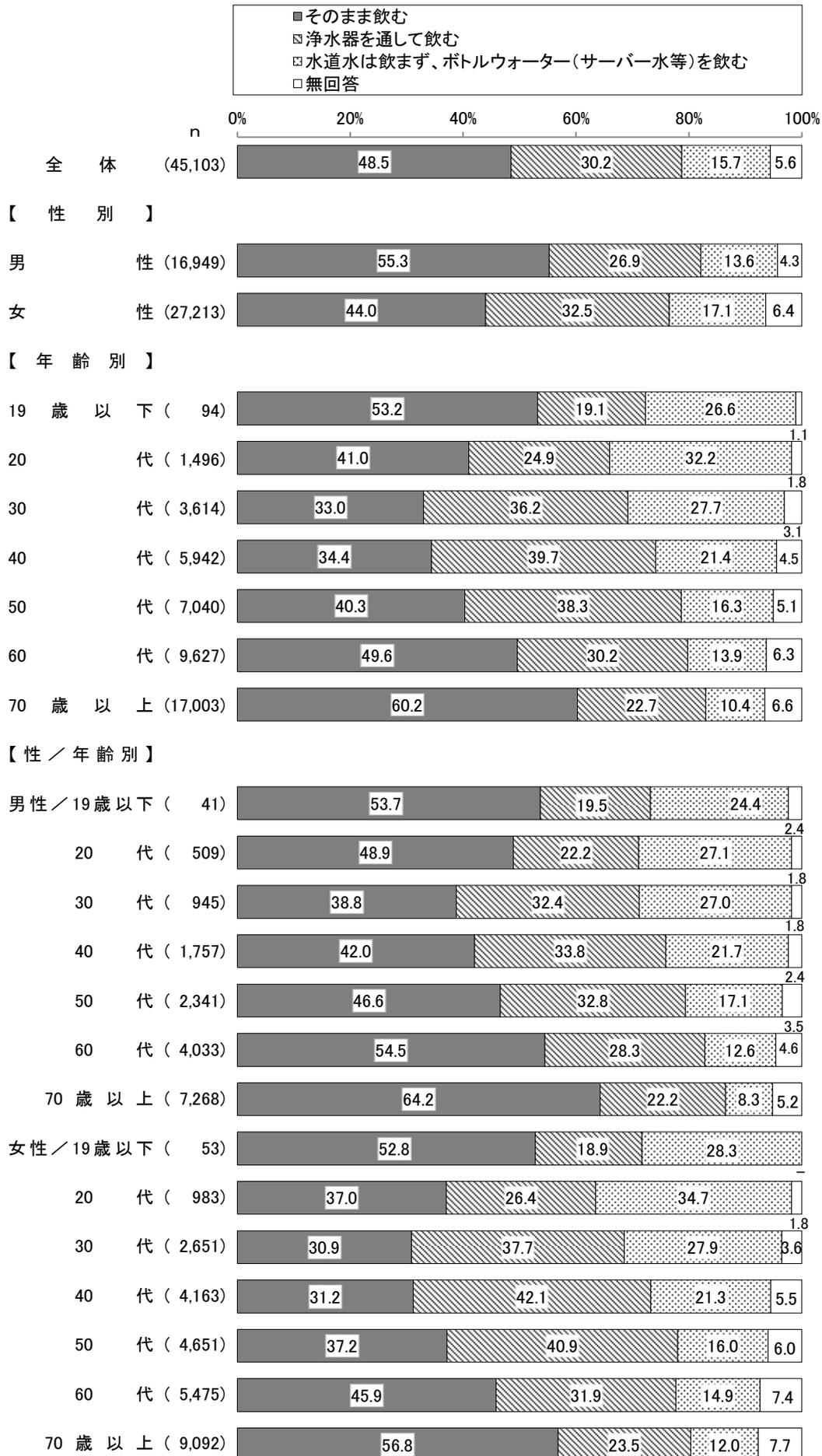
#### ① 水の飲み方（利用区分別、給水方式別）〈図表2-1-1〉



<特徴>

- 全体でみると、「そのまま飲む」が48.5%で最も高くなっている。以下「浄水器を通して飲む」(30.2%)、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」(15.7%)となっている。
- 利用区分別では、「そのまま飲む」は、一般家庭用と店舗併用等で54.2%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「そのまま飲む」は、直圧直結給水方式で53.0%と最も高くなっている。

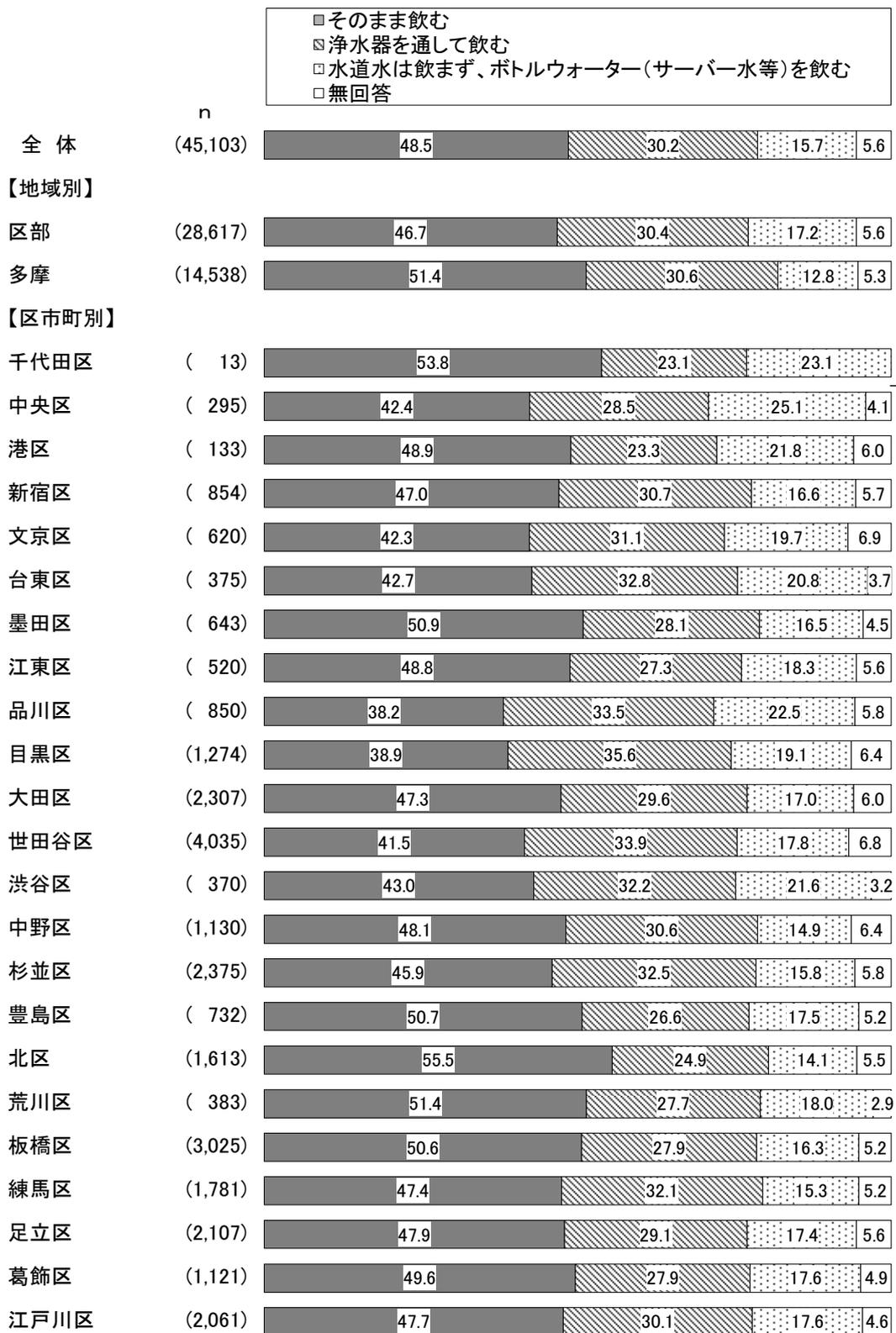
② 水の飲み方（属性別）〈図表2-1-2〉



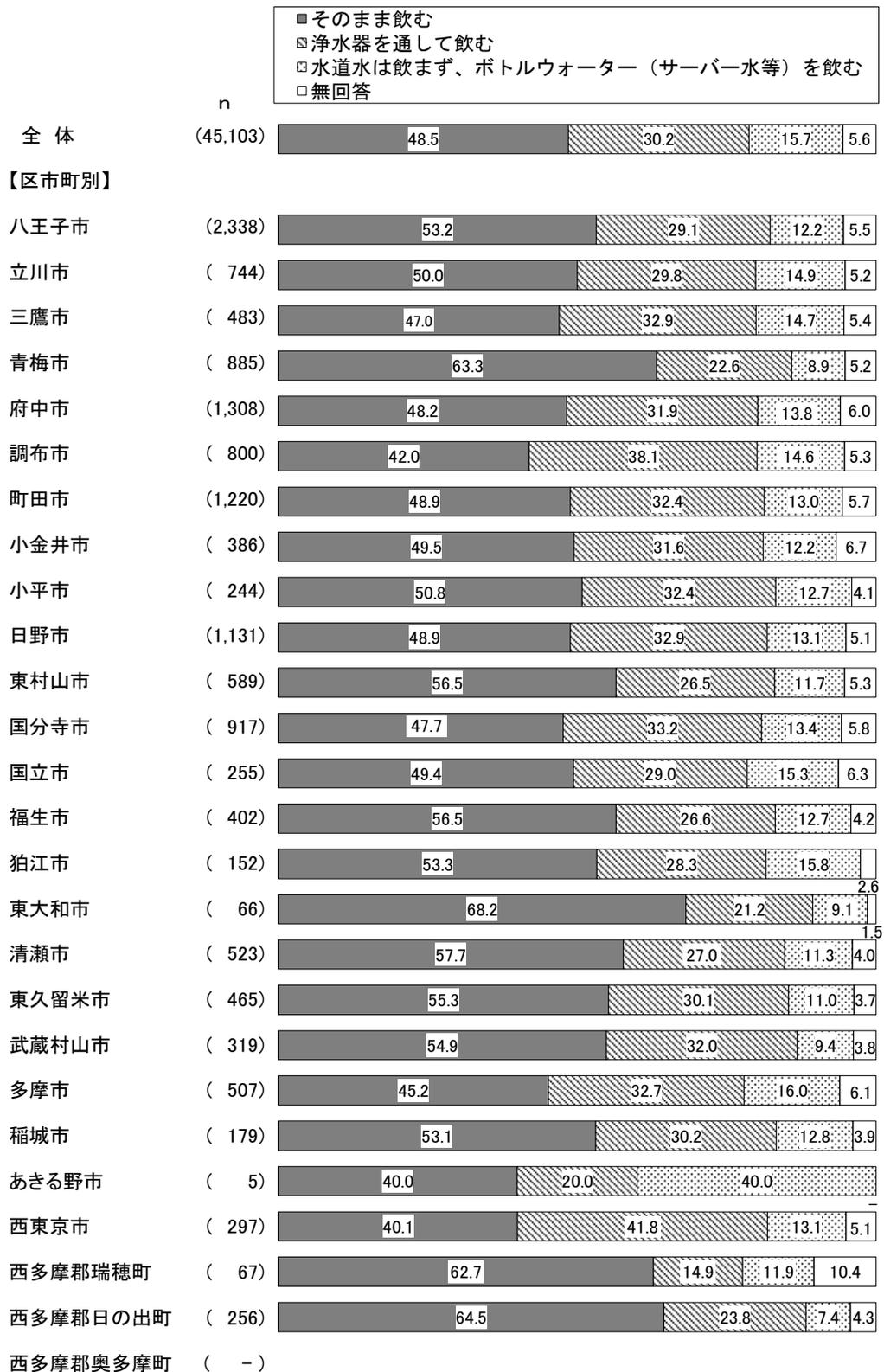
<特徴>

- 性別では、「そのまま飲む」は、男性（55.3%）の方が女性（44.0%）より11.3ポイント高くなっている。一方、「浄水器を通して飲む」は女性（32.5%）の方が男性（26.9%）より5.6ポイント高く、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」も女性（17.1%）の方が男性（13.6%）より3.5ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「そのまま飲む」は、30代（33.0%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれて割合は高くなり、70歳以上（60.2%）で最も高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、20代（32.2%）で最も高く、それ以降は年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。
- 性／年齢別では、「そのまま飲む」は、男性の70歳以上（64.2%）で最も高く、女性の30代（30.9%）で最も低くなっている。また「浄水器を通して飲む」は、女性の40代（42.1%）で高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、女性の30代（34.7%）で3割台半ばと高い割合となっている。

③ 水の飲み方（地区別、区市町別）〈図表 2-1-3〉



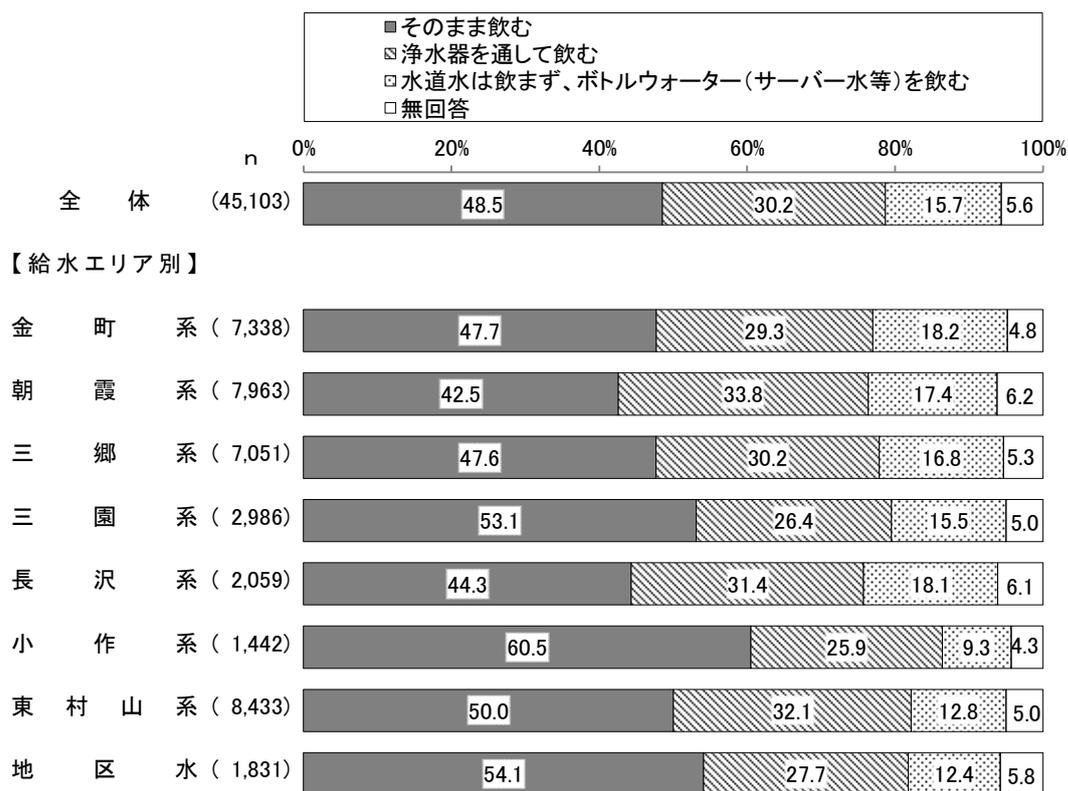
③水の飲み方（地区別、区市町別）〈図表2-1-4〉



＜特徴＞

- 地域別では、「そのまま飲む」は、多摩（51.4%）の方が区部（46.7%）より4.7ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は区部（17.2%）の方が多摩（12.8%）より4.4ポイント高くなっている。
- 区市町別で「そのまま飲む」をみると、区部では北区（55.5%）が5割台半ばで最も高く、千代田区・荒川区・墨田区・豊島区・板橋区で5割を超えている。多摩では東大和市（68.2%）が7割近くと最も高く、日の出町・青梅市・瑞穂町で6割台と高くなっている。

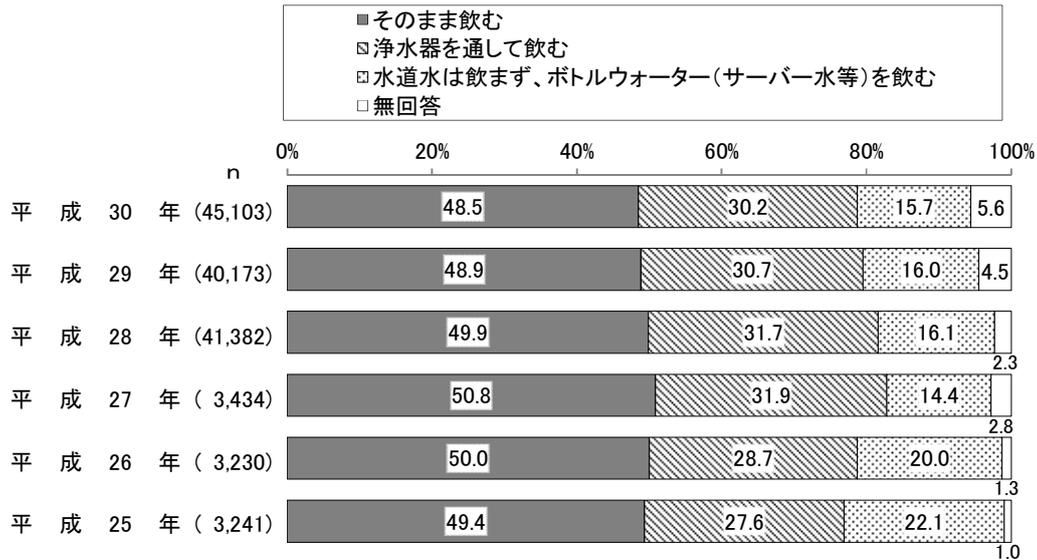
④ 水の飲み方（給水エリア別）〈図表 2-1-5〉



<特徴>

○給水エリア別では、「そのまま飲む」は、小作系（60.5%）が最も高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は金町系（18.2%）と長沢系（18.1%）が2割弱で他の給水エリアより高い割合となっている。

⑤ 水の飲み方（時系列：全体）〈図表 2-1-6〉



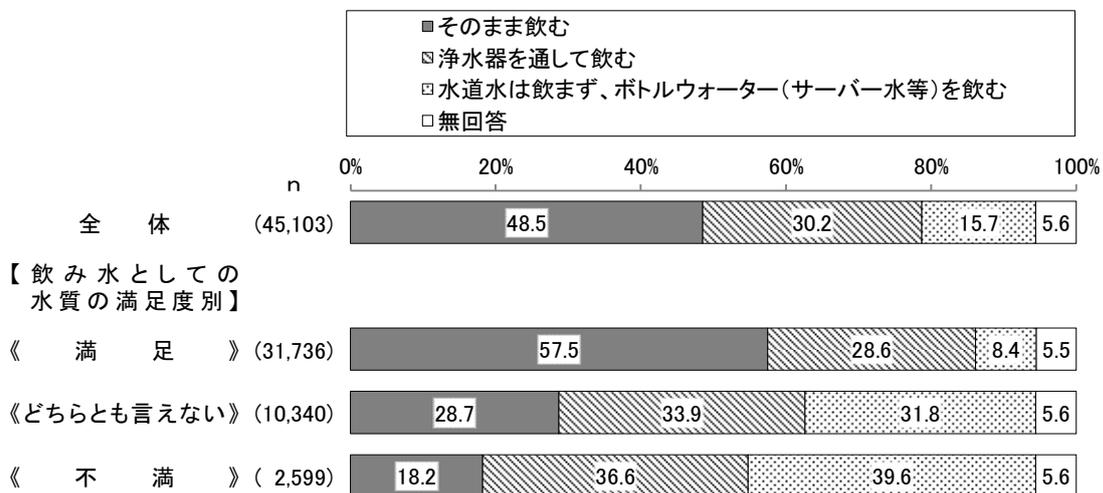
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「そのまま飲む」が5割前後、「浄水器を通して飲む」が3割強で推移している。

〔詳細分析〕（分析の軸はA票の設問）

⑥ 水の飲み方（飲み水としての水質の満足度別）〈図表 2-1-7〉

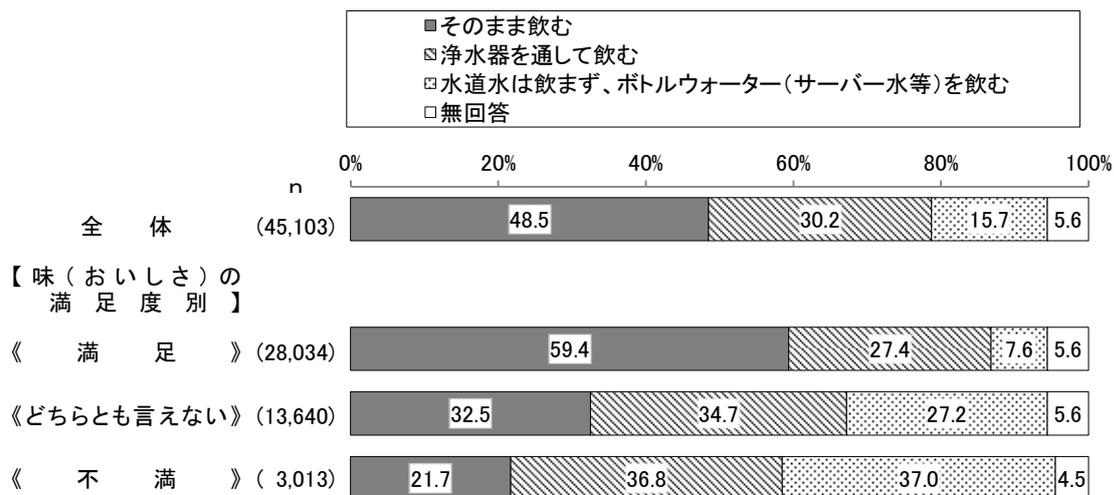


注 飲み水としての水質の満足度の結果は23ページに掲載されているが、水の飲み方はA票のみの設問であるため、nはA票の回答者数に絞られる。

＜特徴＞

○飲み水としての水質の満足度別では、「そのまま飲む」は、飲み水としての水質に《満足》な人(57.5%)の方が《不満》な人(18.2%)より39.3ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター(サーバー水等)を飲む」は、《不満》な人(39.6%)の方が《満足》な人(8.4%)より31.2ポイント高くなっている。

⑦ 水の飲み方（味（おいしさ）の満足度別）〈図表2-1-8〉



<特徴>

○水道水の味（おいしさ）では、「そのまま飲む」は、水道水の味（おいしさ）に《満足》な人（59.4%）の方が《不満》な人（21.7%）より37.7ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、《不満》な人（37.0%）の方が《満足》な人（7.6%）より29.4ポイント高くなっている。

(2) 調理に使用する場合の水の使用状況

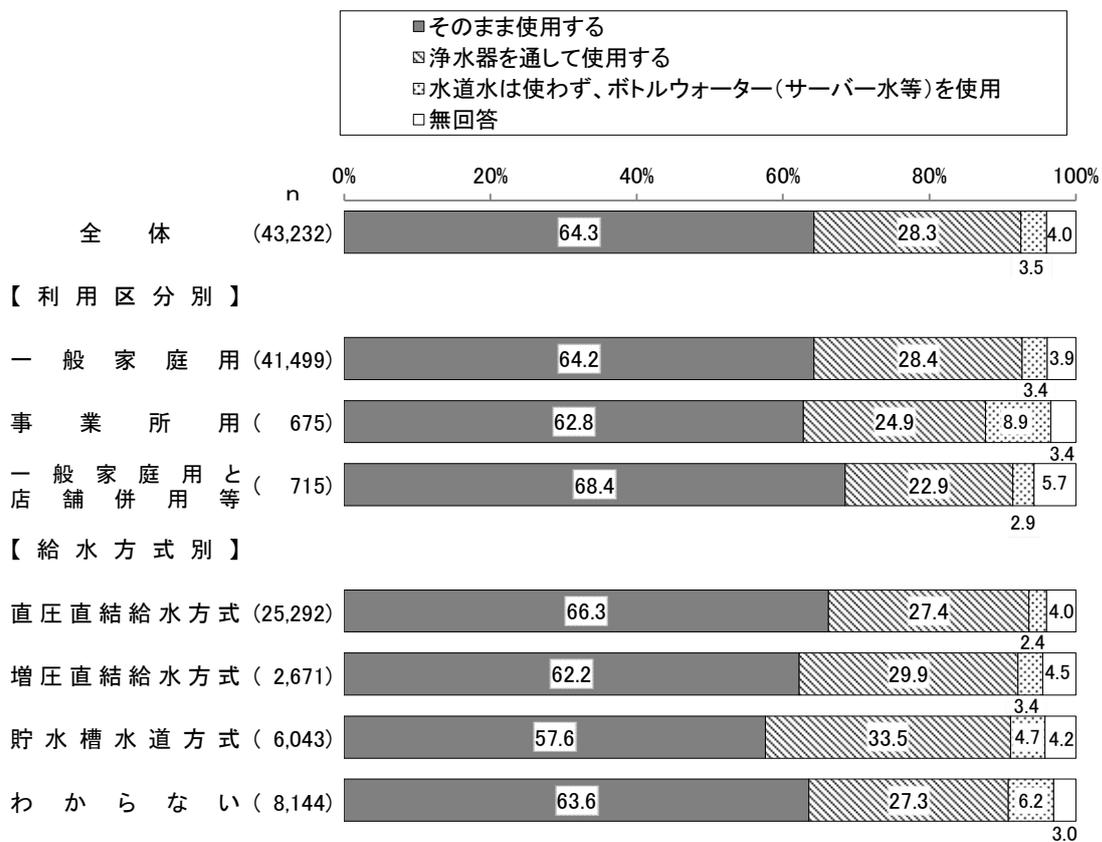
問 普段調理をする場合、水道水をどのように使用されていますか。

- 1) そのまま使用する
- 2) 浄水器を通して使用する
- 3) 水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用する

[B : 問 8]

[調査結果]

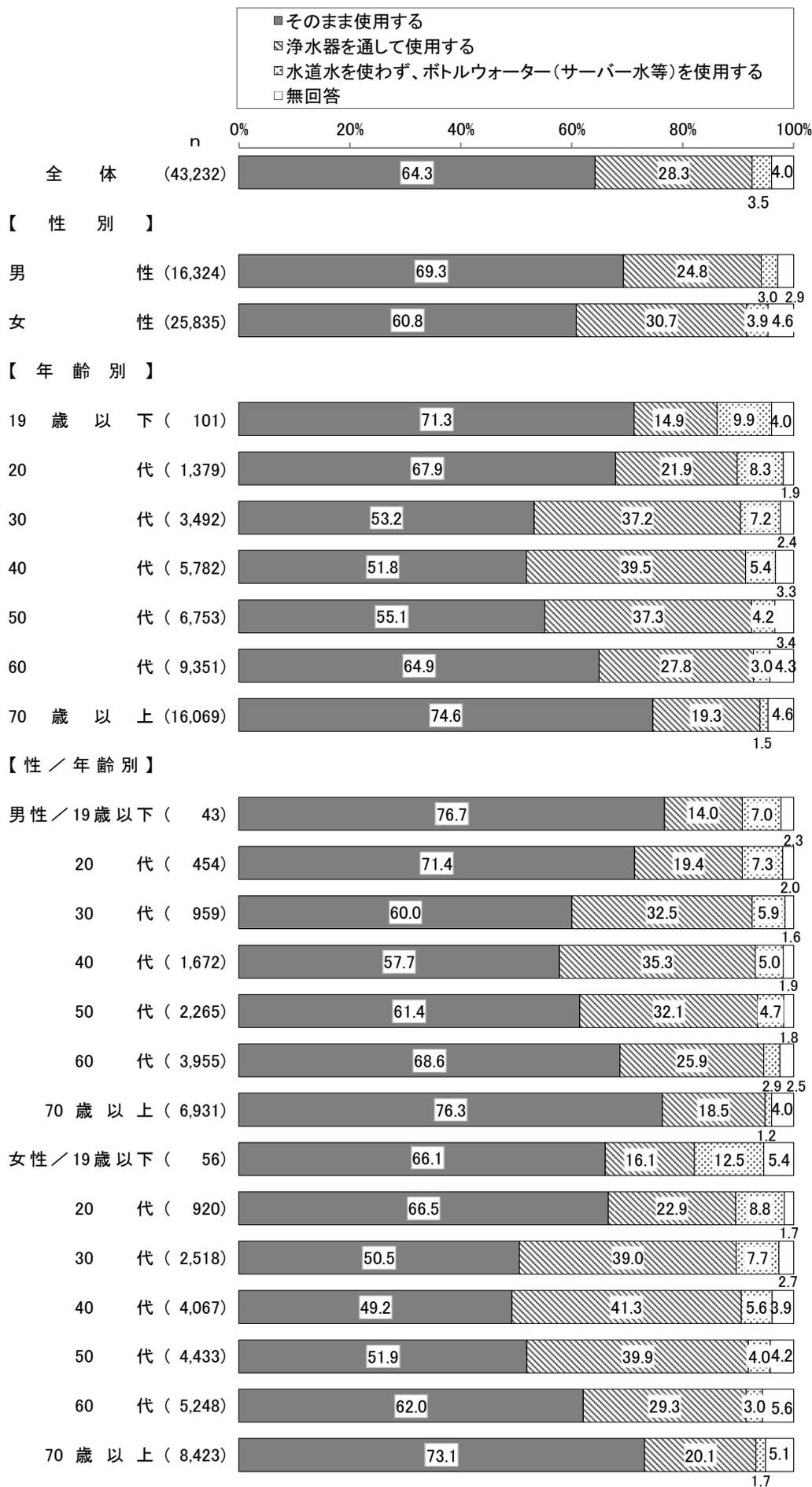
① 調理に使用する場合の水の使用状況（利用区分別、給水方式別）〈図表 2-1-9〉



<特徴>

- 全体で見ると、「そのまま使用する」が64.3%で最も高くなっている。以下「浄水器を通して使用する」(28.3%)、「水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用」(3.5%)となっている。
- 利用区分別では、「そのまま使用する」は、一般家庭用と店舗併用等（68.4%）で最も高い割合となっている。
- 給水方式別では、「そのまま使用する」は、直圧直結給水方式で66.3%と最も高い割合となっている。

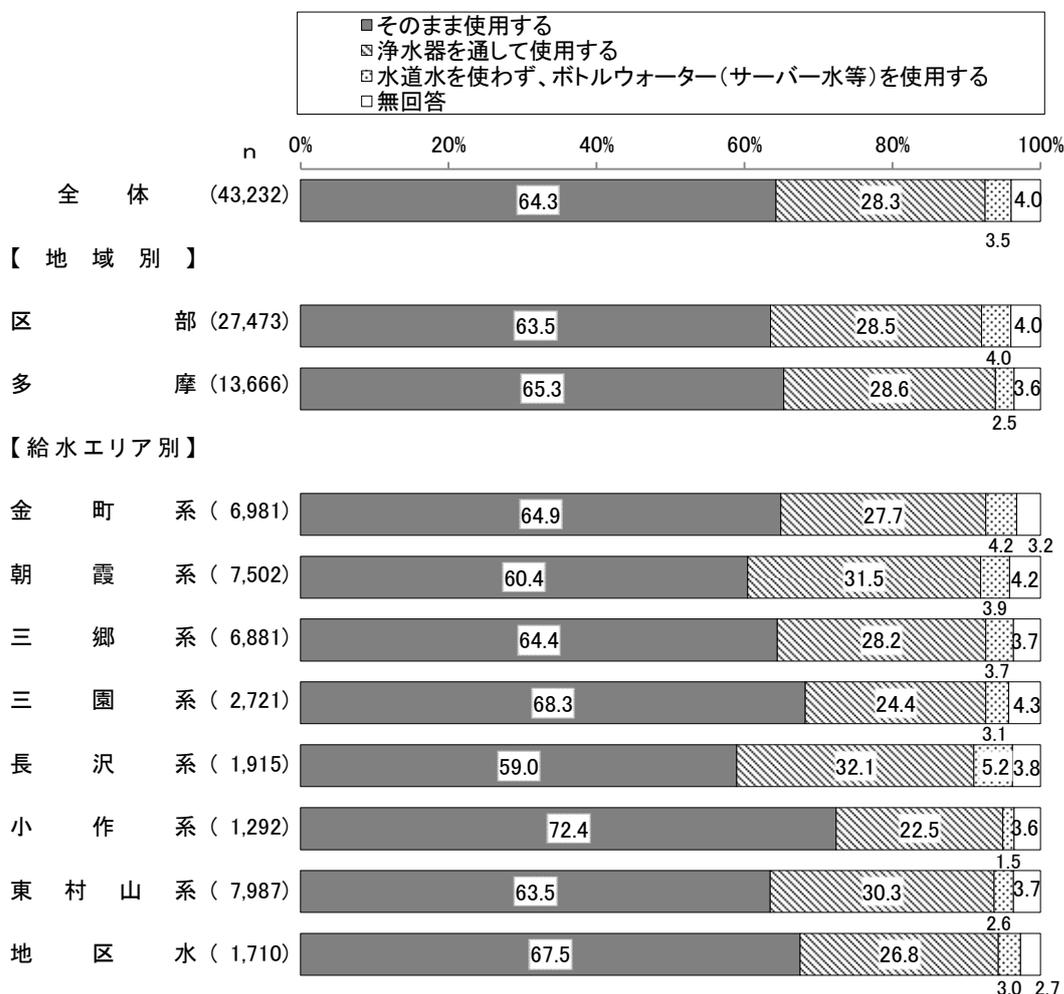
② 調理に使用する場合の水の使用状況（属性別）〈図表 2-1-10〉



<特徴>

- 性別では、「そのまま使用する」は、男性（69.3%）の方が女性（60.8%）より8.5ポイント高くなっている。一方、「浄水器を通して使用する」は女性（30.7%）の方が男性（24.8%）より5.9ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「そのまま使用する」は、19歳以下（71.3%）から年齢が上がるにつれて割合は低くなり、40代（51.8%）で最も低くなるが、40代からは年齢が上がるにつれて割合は高くなり、70歳以上（74.6%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、「そのまま使用する」は、男性の19歳以下（76.7%）で最も高く、次いで、男性の70歳以上（76.3%）、女性の70歳以上（73.1%）となっている。

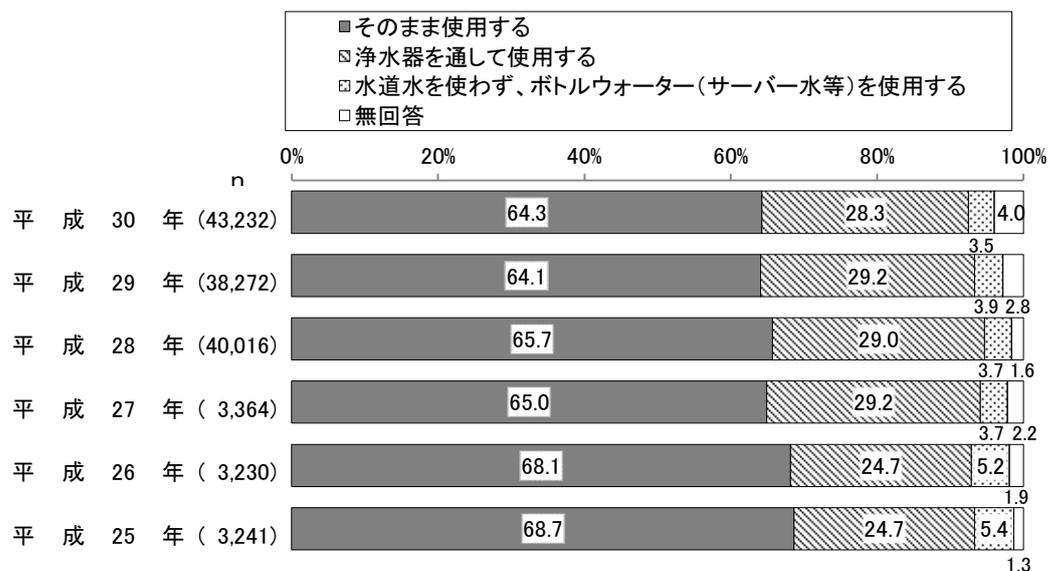
③ 調理に使用する場合の水の使用状況（地区別、給水エリア別）〈図表2-1-11〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、「そのまま使用する」は、小作系（72.4%）で最も高く、次いで三園系（68.3%）となっている。

④ 調理に使用する場合の水の使用状況（時系列：全体）〈図表2-1-12〉



<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「そのまま使用する」が6割台半ば、「浄水器を通して使用する」が3割弱で推移している。